



『私の忘れもの』 第29号

H21.12.18

☆ 認知症を発症した方への関わり方・・・入浴を嫌がる

認知症を発症すると、人によっては「もう入った」「きれいだから」「めんどうなもの」など様々な理由をあげて入浴を拒否します。入浴という行為はとて個人的事で、介助を必要とする場合は、特に関わり方に配慮が必要になります。認知症を発症していても恥じらい等の気持ちは以前と変わらないことを理解し、ご本人の気持ちを傷つける言動は避けなくてはなりません。また、「もう1週間も入っていないのに・・・」などといっても、ご本人は覚えていないのですから、傷つき余計に反発することになります。発症前の入浴に関する習慣（入浴する時間・入浴の仕方等）も出来るだけ守り、見守りながらご本人に出来ることはしていただくことも大切です。どうしても拒否する時は、温かいタオルで拭いてあげ、気持ちよさを実感してもらうと同時に、清潔を保つのも一つの方法です。



では、入浴のきっかけをどうすれば作れるのでしょうか。ある方は、「一番風呂ですよ。誰よりも先で気持ちいいですね。お湯がさめてしまわないうちに入りましょう」と毎回言い続けているうちに、「やだねえ」といいながらも、笑顔で入られるようになりました。（松尾 記）

☆ 認知症の種類・・・ピック病（原因と症状）

（原因） 原因は不明ですが、脳の前頭葉から側頭葉にかけて萎縮します。発症に男女差は無く、ほとんどが65歳以下で発症しますが、平均発症年齢は49歳といわれています。病気の認知度はまだ低く、周囲の理解を得るのも困難な現実があります。

（症状） 大きな特徴として、常同行動と反社会的行動があげられます。常同行動とは常に同じ行動をする、つまり、膝をこすり続ける、同じものを食べ続ける、同じ道をくり返し歩く、同じ文章をくり返し書く、などがしばしば見られます。また、自発的な発語が減少し、何時も同じことを言い続ける、といった状態にもなります。反社会的行動は万引きが代表的で、万引きで捕まり、ピック病が見つかったケースも珍しくありません。この反社会的行動は、働き盛りの人から、社会的な信頼や仕事を奪うという悲しい結果ともなります。

☆ サインを見逃さずに・・・困難なサイン

今回は見逃さない為の気持ちの持ち様と、困難なサインについて言及してみたいと思います。実際に認知症を発症する前には、専門医でも判断に迷うような症状が多く見られ、認知症の予備軍と思われる方々が存在します。「軽度認知機能障害（MCI）」や「加齢的認知機能低下（AACD）」などに分類され正確な診断基準は、まだ確立されていないそうです。ただし何もせずにいるとAACDの場合で3年以内に約3割が、MCIは4年後には約半数が認知症を発症すると言われていたのです。以前お伝えした様に「エピソード記憶」「注意分割機能」「計画力」などを発症する前に鍛えたり、気のあった仲間と一緒に楽しく趣味活動する事で、危険度は軽減されるそうです。

老化による物忘れと認知症による物忘れのどちらにも分類され無い、いわば中間のグレーゾーンの部分に属するこの方々のサインを見逃さない為に必要な事は、ご家族の冷静な観察と正確な記録です。そしてなによりも大切なのは「見逃さないという強い思い」と「愛情」ではないでしょうか。（福原 記）

『私の忘れもの』は、「福祉のまちづくりパートナーシップ区民活動支援事業」の助成をうけて印刷されています。

お問い合わせは「白い箱の会」事務局（松尾方 TEL:FAX 3998-9006）まで。